

第2回 こども安全対策分科会会議録	
日 時	平成31年 2月21日 (木) 14時～15時
開催場所	栄区役所本館 3階 3号会議室
出席者	片岡、山下、大平、澤井、本田 (敬称略) 事務局：根本、久保田、服部
議 題	1 あいさつ 2 議事及び報告 (1) セーブ・キッズ・フォーラム「KYTセミナー」の実施報告 (2) 今後の取組について (3) 意見交換 (4) その他 (情報交換など)
議 事	<p><議事及び報告></p> <p>(1) セーブ・キッズ・フォーラム「KYTセミナー」の実施報告 資料をもとに事務局から報告をした。今後、参加者が自身の活動団体や各家庭でこのKYTを広めていただき、誰もが気軽にKYTに取り組める機会が増えるとよい。</p> <p>(2) 今後の取組について (意見交換を含む) 事務局から、31年度はKYT教材を保育園 (年長クラス) にも配布し、取組を広げていく予定であることを説明した。その他、こども安全対策分科会としての活動や取組に向けた意見を伺った。</p> <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ KYTは、子育て中の親にとっても有効であり、子どもと一緒に何度も繰り返し学ぶことが大事である。 ・ 幼児はゲーム的な要素や考えることが好きであるため、KYTの手法は幼児向きである。 ・ 4月に実施する小1スタートカリキュラムの中で、保育園とは異なる小学校の大きな校舎を巡りながら、危険ポイントを見つけていく体験などはKYTの発想と同じである。(小学校には大きな鉄製の扉もある) ・ 保育園の年長クラスで小学校入学に向けて10月から行うアプローチ・カリキュラムと、小学校入学後に小1が行うスタートカリキュラムのように、子どもの育ちを保育園から小学校につなげていく取組はとても重要である。「幼保小連携推進地区」は、そのような連携を積極的に図る絶好の機会であり、セーフコミュニティの観点からも、KYTの取組をこのカリキュラムに組み込んで継続して実施していくことが効果的かつ望ましい形ではないかと思う。保育園と小学校に同じKYTの教材があれば、1年生も親しみをもって学んでくれると思う。 ・ 小学生と一言で言っても、1年生から6年生までいる。ついこの間まで園児だった1年生を、スタートカリキュラムを通じて保育園の先生がフォローしてくれるのはとても心強い。 ・ 保育園 (幼稚園) から小学校、小学校から中学校になった途端に、子どもたちの成長がリセットしてしまう (と思い込む) 傾向にある。子どもたちが6年間どのように成長してきたか、最高学年として、リーダーとしてやってきたことを自覚させることは、さらなる育ちにつながる。 ・ こども安全対策分科会ののぼり旗を作成し、活動をPRしてもよい。 ・ 子どもたちがもっと地域の活動に参加する機会があるとよい。 ・ 社会全体が危険に対する意識が低すぎる傾向がある。自分の言動がどのような結果につながるのかをわかっていない (「想像力の欠如」)。それは安全にも関わってくる問題である。 ・ 幼児の外遊びが少なくなっていることで、自分の身体の動きを知ることに対して経験不足 (身体のバランスなど) である。親も室内遊びの親子行事には積極的に参加するなど、楽な方に流れてしまうことが多い。 ・ インフラ整備も大事である。公園でもボール遊びが禁止であったり、安心してボール遊びをできる場所が近くにない。
資 料	1 委員名簿 2 セーブ・キッズ・フォーラム「KYTセミナー」の実施報告

